2014 年度の北大小児科年報の発刊にあたって

2014 年度の北大小児科年報の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。北大小児科年報の発刊は 2004 年度から始めましたので、これが 11 巻目となります。今回も気軽にご一読、ご批判いただけると幸いです。

2015 年も残り少なくなってきたところですが、日本人がノーベル賞を受賞したとの朗報：大村智先生の医学生理学賞受賞と梶田隆章先生の物理学賞受賞が連日にわたって報道され、日本中が沸きかえっております。私も日本人として大変嬉しく、誇りに思いましたが、２人の研究のコンセプトの違いが際立っていたのを非常に興味深く感じました。大村先生の研究が「世の中に役立つ仕事」であるのに対し、梶田先生の研究は「人類の知の地平線を拡大する作業」だという点です。また、大村先生の研究では横のつながりがあり、梶田先生の場合は、縦のつながりがありました。しかし、地道に研究を継続すること、謙虚であることは２人の共通点であり、これも興味深い点でした。

さて、続いて 2015 年の北大小児科での朗報をお知らせします。夏には、窪田満先生が成育医療研究センター総合診療部の部長に選考されました。また、つい先日、北大小児科内分泌グループを取り仕切っていた田島敏広先生が、自治医科大学小児科の教授に選考されました。同門の一人として、非常に嬉しく思っております。2 人は奇しくも同期でありますが、興味深いことに前述のノーベル賞受賞者ではありませんが、2 人の小児科診療に対するコンセプトはかなり異なっているように思われます。大村タイプの窪田先生、梶田タイプの田島先生と言うと、ちょっと褒めすぎですね。しかし、勿論子どもに対する温かい気持ち、小児医療に対する熱い思いは２人共通であります。何れにしても、今後の２人の活躍を大いに期待したいと思います。

最後に同門の皆様方からも２人に暖かい応援をよろしくとお願いし、巻頭言の挨拶といたします。

北海道大学大学院医学研究科
小児科学分野　教授　有賀　正